



保育体験(6年生)

まなざし

「まなざし」という言葉には、人の優しさや愛情や慈しみのような豊かな情感が感じられる。

似たような言葉に「視線」や「目線」がある。「視線」には「視線を感じる」というように情感というよりも意志や意思を感じる人が多い。また、「目線」と言ったときには「目線を合わせる」というように高さについての表現である感じがする。「目線」や「視線」ではイラストや漫画で点線や矢印を使って表現されるように空間の方向性を指し示していることが多い。しかし、「まなざし」にはそういうことがない。

上の写真には「まなざし」という表現がぴったりである。言葉を換えれば、「心配り」や「気配り」に似ているであろうか。だから「まなざし」には温かさがある。

子どもたちが過ごす学校には教師の「まなざし」が感じられるようでなければ困る。例えば、靴箱の靴がいつもきちんと入れられているクラスと子どもたちの慌ただしさが靴箱にそのまま残されている靴箱がある。前者には教師が何気なく子どもたちの靴箱を見つめている「まなざし」が感じられる。

このことは学校や幼稚園・保育園だけに限らない。子どもたちにとって一番身近な家庭の中にも「まなざし」がなくてはならない。それはお金をかけるということでもなく、わがままにさせるということでもない。

Photo News

フォトニュース



能登川消防署の見学（４年）



山路川の水質調査（５年）



シャボン玉づくり（１年）

ベランダでシャボン玉づくりをしました。こんなにも大きなシャボン玉ができ、先生も大ビックリ。



野田農場で植栽（３年）

大中の野田農場さんでサニーレタスの植え付けをしました。一つしかない自分だけの野菜ができるのが楽しみです。



米原駅の見学（２年）



近江だるま制作（６年）

６年生では、郷土学習の一環として、保存会の方に教えていただいて、個性あふれる「近江だるま」を作っています。きれいに色づけして完成したら、展示してみんなに見てもらおう予定です。